

令和5年度 年間指導計画

A科:動物科学科 B科:植物科学科 C科:食品科学科 D科:人間科学科 E科:環境科学科

教科	農業	科目	環境バイオテクノロジー	単位数	3	学年・学科	3学年・E科
教科書			副教材				

目学 標習	○プロジェクト学習法に基づいた研究活動により、課題解決能力やプレゼンテーション能力、研究論文作成能力を養う。
学習 方法	○各自の関心に基づいたテーマ設定を行い、この解決に向けて調査、実験、観察を計画的に実施する。 ○課題解決に向けて仮説を立て、結果を分析し、その原因や影響を考察するなど研究活動を進める中で論理的、科学的思考能力を養う。 ○卒業論文として研究内容をまとめる中で、結果を客観的に整理し、人に分かりやすく伝える能力を養う。

	評価の観点	評価の観点の趣旨	学期	重み付け	割合	
					考査	考査以外
学 習 評 価	a 関心・意欲・態度	人間の暮らしと環境の関わりについて興味・関心を持ち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて解決しようとする態度を身につけている。	前期中間	25 %	15	10
			前期末	25 %	15	10
			後期中間	25 %	15	10
			後期末	25 %	15	10
	b 思考・判断・表現	農業や環境保全に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断することができる。	前期中間	25 %	15	10
			前期末	25 %	15	10
			後期中間	25 %	15	10
			後期末	25 %	15	10
	c 技能	生物の栽培、飼育に関わる基礎的技術を身につけているとともに、データを研究論文としてまとめることができる。	前期中間	25 %	15	10
			前期末	25 %	15	10
			後期中間	25 %	15	10
			後期末	25 %	15	10
	d 知識・理解	農業各分野の将来のスペシャリストに必要な問題解決の能力や自己教育力などの育成するために、農業と環境に関する基礎的な知識を身につけ、環境保全・創造の重要性を理解している。	前期中間	25 %	15	10
			前期末	25 %	15	10
			後期中間	25 %	15	10
			後期末	25 %	15	10

学期	単元名 (題材)	学習内容 (小単元)	評価の観点				単元の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前 期 中 間	○専攻班学習	・研究班の専攻学習として、バイオテクノロジーの技術を環境保全に活用する実践的な学習を行います。	○	○	○	○	a:植物バイオテックに関わる地域課題に関心を持っている。 b:環境保全について思考を深め、調査実験から結果を客観的に分析、判断できる。 c:植物の栽培について基礎的な技術を身につけ、責任をもって管理している。 d:植物の生育特性に関する知識を身につけるとともに、それらを環境保全に有効に活用する知識を身につけている。	・実習レポート ・作物管理状況 ・実習態度
前 期 末	○専攻班学習	・研究班の専攻学習として、バイオテクノロジーの技術を環境保全に活用する実践的な学習を行います。	○	○	○	○	a:各自のテーマに関する植物や環境問題・地域産業課題に関心を持っている。 b:植物の生育調査を通じて環境要因の影響を調べ、その結果を表現できる。 c:栽培の基礎的な技術を身につけ、責任をもって栽培管理をすることができる。 d:植物に関する基礎的な知識を身につけ、環境保全や地域産業振興に役立たせることができる。	・実習レポート ・作物の管理当番状況 ・実習への取り組み態度

後 期 中 間	<input type="checkbox"/> 専攻班学習 <input type="checkbox"/> 盛農祭への取り組み	・研究班の専攻学習として、バイオテクノロジーの技術を環境保全に活用する実践的な学習を行なう。 ・文化祭展示として、その年に自分たちが取り組んだ研究についてまとめ、一般公開します。	○	○	○	○	a: 地域産業の環境問題等の課題に興味関心を持っている。 b: 調査結果を適確に判断し、盛農祭で分かりやすく表現できる。 c: 植物育成の基礎的な技術を身につけ、計画的に実験実習を進めることができる。 d: 植物に関する基礎的な知識を身につけ、環境保全や地域産業振興に役立たせる知識を身につけている。	・授業ノート ・小テスト ・実習態度 ・盛農祭
後 期 末	<input type="checkbox"/> 専攻班学習 <input type="checkbox"/> 1年間の活動のまとめ	・研究班の専攻学習として、バイオテクノロジーの技術を環境保全に活用する実践的な学習を行います。 ・各自の専攻班での学習についてまとめます。	○	○	○	○	a: 国内外や身近な環境に関心を持ち、環境保全の方法を探究しようとしている。 b: 調査研究を通して環境保全に関する思考を深め、その内容を適切に表現している。 c: 環境調査に関する基礎的な技術を身につけ、これを活用できる。 d: 森や川、農村・都市の環境についてその健全性を図り、良好な状態に保全する方法を理解している。	・授業ノート ・実習態度 ・研究論文